

報告事項 サ

島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との連携協力推進協議会の概要  
について

島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との連携協力推進協議会を開催しました  
ので、その概要について報告します。

平成26年10月20日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

## 島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との連携推進協議会の概要について

教育総務課

- 1 日 時 平成26年8月28日(木) 15時20分～17時20分
- 2 場 所 ハーベストイン米子「ブリリアント」
- 3 出席者 島根大学：教育学部長、副学部長、附属学校部長 他 計13名  
県教育委員会：教育長、教育次長、教育センター所長 他 計9名
- 4 内 容



### < 議 事 >

#### (1) 今後の連携課題等について—特に教職大学院関係— (島根大学提案)

- 平成28年度4月設置を予定、定員13名という、全国で一番規模の小さい教職大学院になりそう。
- 文科省には、島根県・鳥取県教委と連携し、地域に根付く持続可能な教職大学院を作るよう言われている。
- 教職大学院を作る目的は大きく2つ。
  - ・来て頂いた先生をきっかけに、大学の教員が、組織として、システムとして、地域に深く関わっていくこと。(今までの大学院は先生個人との関係で終わっていた。)
  - ・今までの大学院は、どちらかというと基礎理論を学ぶところに重きをも置いていたが、教職大学院では、それも大事にしつつ、もっと実践に重きを置いたカリキュラムを目指す。
- 別支援教育に力を入れてカリキュラムを編成しているのは、島大教職大学院の特色の一つ。
- 教育行政と大学とが、一緒になって山陰の教育を考える、その一つの組織と考える。
- カリキュラムは、小中学校の義務の先生方はもちろんだが、特別支援学校、高等学校の先生方にも対応できる内容を考えている。
- 教師カールブリックという形で実現したい。大学の授業も、授業を受ける教師も、自分が今、何を学習でき、どこまで力をつけたかを見るための指標のようなものが必要。その指標づくりを、両県教育センターと一緒に考えながら、教職大学院の授業を構想し、評価していきたい。またそのループブリックは、両県教育センターの研修プログラムにも使っていただき、将来的には、養成の場である教職大学院、研修の場である両県教育センターが、養成と研修を一つのテーブルの上で考えながら、トータルで育成できるような養成・研修システムを作れないかと考えている。まずは教職大学院で使ってみよう。

## (2) グローバル化に対する取り組みについて (鳥取県教委提案)

- 鳥取県の取組について説明。
- 島根大学の先生方の協力もあり、今の構想を持つに至った。
- グローバル人材の育成は、英語教育だけではなく、地球市民としての貢献、関心の育成も大切。そういう意味では英語に限定せず、他教科との関わりも必要。
- 教員養成段階での英語力向上については、大学で具体的にこれをとというのは、今は資料がなく明確な回答はできないが、英語専攻に入る学生は、元々ある程度の英語力をもっている。また、大学としても留学を積極的に勧めている。全学で言えば、特別副専攻(英語高度化プログラム)を実施、留学、海外研修等を行う等、グローバル人材の育成に努めている。
- 鳥取県が教員の英語力向上に取り組む中、学校から島根大学に講師をお願いされることがあるが、急なお願いだと、なかなか人材がない。断るのも心苦しい。もしあらかじめ想定できるのであれば、粹等を言っていたら、学生だけでなく、退職教員の人材バンクを作るようなことも考えることができる。

### <報告事項>

#### (1) 島根大学

- ①鳥取県出身平成26年度入学生及び平成25年度卒業生の就職(教員)の状況について
- ②平成25年度鳥取県内における基礎体験活動の実施状況について
- ③体験等及び特別支援教育実習について
- ④教員免許状更新講習について
- ⑤現職教員研修プログラムについて
- ⑥学校図書館司書教諭講習について
- ⑦出張講義及び大学訪問について

#### (2) 鳥取県教委

- ①教員志願者の確保について
- ②平成26年度島根大学と県立高等学校における連携の状況について
- ③学生教育ボランティア制度の活用について